



医療DXプロフェッショナル

第7回 「はたらク」を実現するIkegamiの映像システムソリューション ～「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。～

池上通信機株式会社 営業・マーケティング本部 イメージプロセスソリューション営業部
国内メディカル事業推進グループ 金古萌絵音

はじめに

蒲田駅と五反田駅間を走る、東急池上線。当社の最寄り駅の池上駅は、この東急池上線の駅である。池上通信機という名前も、この地名に由来している。

『「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。』というパーパスを掲げ、当社は50年以上にわたり培ってきた医療映像技術をもって、日々医療に貢献している。

タイパ（タイムパフォーマンス）や、コスパ（コストパフォーマンス）などという言葉が日常で多く見聞きされるようになった昨今、人々はいかに時間とお金を効率的に、効果的に運用するかにフォーカスしている。そこには、1日24時間という限られた時間の中で処理すべき情報が増えたこと、自己の生活において使える資産が限られていることが要因としてあるのではないだろうか。そして同じことが今、医療機関においても起きている。限られた時間、限られた予算をいかに効果的に活用し、目の前の患者さん、医療従事者、自分の大切な人へ最大限の還元をできるか、が最重要事項となっている。

本稿では、DX化を医療機関と共に考え作り上げていく、当社の映像システムソ

リューションについて紹介する。最後までお付き合いいただければ幸いである。

病院内の映像システムソリューション

病院内における、映像情報の高画質化、多様化、多目的化は著しい。百聞は一見に如かず、というように、我々は視覚から情報の8割以上を得ている。様々な動画像データを参照し、患者さん1人1人に適切な医療を提供する必要がある。

そのような病院における映像活用に対して当社は、働くことを楽にする「はたらク」をテーマに、手術室内での映像システムソリューション、病院内全体の映像システムソリューションという大きく2つのソリューションを提供している。

手術室では、いかに手術を的確かつ効率的に進められるかが鍵となる。1件1件のオペを確実に成功させることはもちろんだが、病院経営というビジネスの観点から言えば、1件でも多くの手術を行い、収益を上げることが求められる。ここでは、限られた時間・人員を最大限に活かす、当社の手術室映像システムと院内映像システムについて紹介する。

まず、術野カメラをはじめ、手術室内で扱われる映像ソースを一括管理する、手術室映像システムについて取り上げる。本システムは、手術室内で扱われる映像ソースを効果的に運用し、手術室運営の効率化を図るものである。システムを構成する機器、ソフトを次の通り紹介する。

小型3CMOSフルHDカメラ

「MKC-X300」(図1)

MKC-X300は当社メディカルカメラ史上、最高感度・多機能モデルのフルHDカメラだ。2023年7月の販売開始以来、日本全国の手術室術野カメラとして採用いただき、累計出荷台数は1000台を突破した¹⁾。

撮像素子には、1/2.8型CMOSセンサを採用。S/N比63dBの高画質とF13/2000lxの高感度を実現しており、低照度手術下でも鮮明な画像の撮影が可能である。感度不足時にはHyper Gainやライン加算、画素加算機能によるさらなる感度アップも可能となっている。

出力信号はSDI出力2系統（1920×1080 i/p, 59.94/50Hz）、HDMI出力1系統（1920×1080 i/p, 59.94/50Hz）を用意。幅広いモニタに対応できるのが



図1